

金沢八景の景観は守れるか

「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいている大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいで、生かされてゐるのです。

金沢八景駅にシーサイドラインの接続工事も終盤となり、金澤八景駅前周辺の様子も日々変化してをります。ことに大型のマンションが次々と建設され、シーサイドラインの延伸と相まって、駅周辺は全く都市的なビル街の景観になりつつあります。

一方、金沢八景駅西側には、旧円通寺跡地において、公園整備の作業も進んでをり、御伊勢山・権現山の保存緑地とともに、「金沢八景」と呼ばれた景勝地の名残がなんとか維持が図られます。しかし、平潟湾の水域とその周辺は、都市計画上の施策がまだまだ不十分に思へます。

野島山の向こうに昇る秋月が、平潟湾の水面に煌めくのが「瀬戸の秋月」でありましたし、朝比奈峠の山の端に傾いてゆく夕日に赤らめさしてくのが「野嶋の夕照」でありました。それらがビル影に遮られる時代になってきました。

琵琶嶋から瀬戸橋にかけて、あるいは夕照橋、室の木から現在の柳町界限には、見通しのきいた景観を維持して、むやみな高層ビル化の制限を計るなどして、海から見える山、山から臨む海の風景を楽しむことのできる町造りを実現していつてほしいものです。

(武陽金澤八景略圖・金龍院版)

平成三十年祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳日祭
- ◎ 鶏鳴神事
- ◎ 三月 二日 春季大祭
- ◎ 祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月 五日 例大祭
- ◎ 神社本廳献幣使参向
- ◎ 琵琶島弁天社へ神輿渡御
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 六月 三〇日 大祓式
- ◎ 大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 八日 天王祭出御祭
- ◎ 本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 一〇日 三つ目神楽
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 一五日 天王祭巡幸祭
- ◎ 天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 二二日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一四日 手子神社秋祭
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一月 二三日 秋季大祭
- ◎ 新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市
- ◎ 開運熊手授与
- ◎ 二月 二三日 天長祭
- ◎ 二月 三一日 大祓式
- ◎ 大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭

神社明細帳図に描かれた

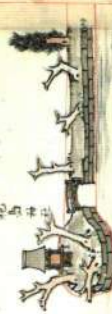
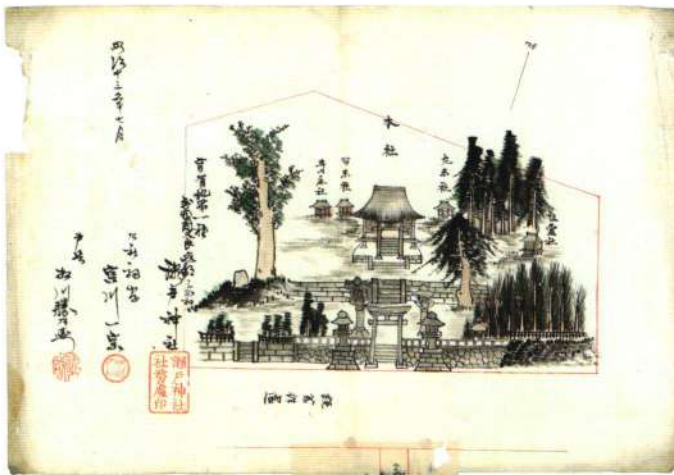
明治十年代の神社の姿

明治維新によって、神社や寺院の制度には種々の改革が進められました。

神仏判然令によって、いはゆる神仏分離がなされたこともその一つですが、版籍奉還によつ

て武家の領地が停止されたのと同様に、寺社が支配していた領地も上知令により廃止され、境内地は官有地とされてゆきま

した。



明治十二年に内務卿伊藤博文名で神社や寺院の基本台帳となる「社寺明細帳」の調製が命じられ、これを受けて神奈川県令野村靖名で神社寺院明細帳調製差出方が各

郡役所に達せられ、久良岐郡においてもこの調製が進められました。この明細帳調製に当たっては、原則百分の一の図面を付し、図面には境内や建物の状況や方位等を記すことと

し、天災や不足の事態を考慮して四葉を作製するものとされておます。

今回、ここに写真を掲載したものは、この時に作製された、瀬戸神社、手子神社、谷津浅間神社の明細帳図であり、明治十三年ころの状況を伺ふことのできる史料です。

瀬戸神社の明細帳図は墨書きに淡彩の色づけがされたもので、弁天島部分は別紙に記載して付箋状に貼り付けて接続されています。百分の一より大きな縮尺で小ぶりの用紙に描かれてをります。

現在の国道十六号線に相当する道路部分は「鎌倉往還」と記載され、石灯籠なども現況と変はらぬ位置に記されておます。

祖霊社の位置には、維新以前は薬師堂がありました。鐘楼とともに神仏分離で除却され、その跡に円通寺東照宮の社殿が移築され、氏子の祖霊を祀る祖霊社とされたもので、年代的に移築直後の図面といふことになります。

琵琶嶋の情景はビヤクシンの

谷津町鎮座

浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に來遊し、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目の下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の來訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が関東一円に広まった中で当地にも勧請されたものでせう。

ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かったと伝へます。御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。

祭礼は六月一日の開山祭と九月一日の例祭。例祭(近くの土日曜)には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他のにぎやかな行事が営まれます。寛正四年(一四六三)西山松眠といふ医師が神饌田を奉納、以来、例祭には赤飯をお供へし、お下がりには崇敬者婦人が分けあつたといふことです。

枯れ木が並んで描かれてゐます。

○ 手子神社の図面には、百分毫縮図と記載があるやうに、指示通りの縮尺で大きな用紙に描か

れてゐます。

概ね地籍通りの区画の中に、地形と建物等を鳥瞰図風にまとめてあります。宮川に架かる橋や、その手前の鳥居は、先の宮川河川改修で姿を変へましたが、この位置にあつたのを記憶されてゐる方もまだ多いでせう。

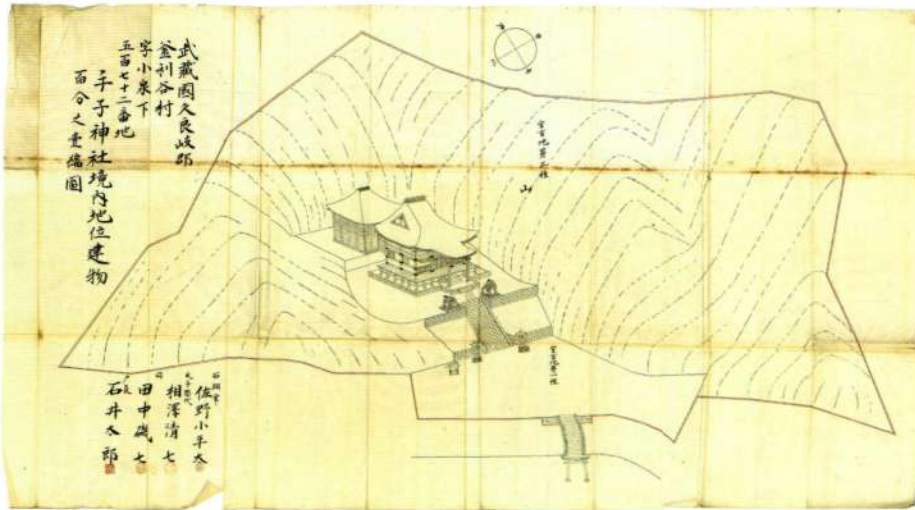
写真では小さくなくて見にくいかも知れませんが、親子の狛犬の姿は現在と変わ

はりありませんね。拝殿正面左右の窓は、葺戸で跳ね上げて掲げる形が描かれてゐます。

谷津の浅間神社の図は彩色があり、山容が独特の筆致で力強く描かれてゐて見応えがあります。

測量図面といふよりは風景画的な描き方で、山頂や山腹の松の枝振りなども、絵師の素養のある筆者によるものでせう。

階段の様子なども現況とほぼ変わりはありませんが、山頂の社殿は茅葺き屋根であつたことが窺へます。



朝比奈町鎮座

熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社をここに勧請したものといひます。仁治二年(一二四二)、鎌倉幕府は朝比奈切通しの開鑿に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたこととせう。

その後、元禄八年(一六九五)、地頭加藤太郎左衛門尉良勝が神殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成し、さらに平成御大典記念事業として新たな拝殿を建築竣功して今日に至つてゐます。

御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。

例祭日は九月十七日で、昔ながらの古式にのつとつた湯立神楽が今も続けられてゐます。

瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前(古墳時代)のことです。

治承四年(一一八〇)鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの靈域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあって、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間にも信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教学人となり神奈川県神社廳献幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年の屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修営事業が行われました。

御祭神

大山祇(おほやまつみ)の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。
須佐之男(すさのを)の命

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話に有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれてゐます。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。

釜利谷町鎮座

手子神社

釜利谷町総鎮守の手子神社は、もとの地の領主伊丹左京亮が、文明五年(一四七三)瀬戸神社の御分霊を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年(一六八〇)、伊丹氏の子孫三河守昌家の子で、江戸浅草寺の智樂院忠蓮僧正が、現在地に遷祀して以来、釜利谷一郷の総鎮守として信仰をあつめて来ました。

明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加えました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日(現在はその後の日曜日)ですが、十月十五日(前後の日曜日)の秋祭りには、古式豊かな湯立神楽が昔ながらの伝統を守つて行われます。

境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されています。

「不改革典」といふもの

元明天皇の即位のときの詔に、天武天皇がお定めになられた「改むまじき常の典と立て賜ひ敷き賜える法」により即位するとされます。この趣旨のことは、それ以後、江戸時代の天皇の即位の詔までたびたび言及されることばとなつてゐます。

皇位の継承にはこのやうな文章化されない不文の大法があつたのは「憲法」や「皇室典範」のやうな成文法となりませんが、それ以前に、その前提となる基本が定められてゐるので、

かうしたことは、皇位継承といふ重要なことにはもちろんですが、私どもの日常のさまざまなことからも言へることではないでせうか。神社を中心とした「まつり」と「くらし」には「不改革典」が満ちあふれてゐます。このことを大切に暮らすをめざしませう。

瀬戸神社 〒三三六-〇〇二七
 横浜市金沢区瀬戸十八-14
 (電話) 〇四五-七〇-九九九二
 (FAX) 〇四五-七〇-九九九四
<http://www.setojinja.or.jp>